

令和6年度 M探 二学年

2年次探究活動の手引き

探究活動に係る提出締切等		
提出物	締切	提出先
<input type="checkbox"/> 計画書	6/12 (水)	Teams
<input type="checkbox"/> PPT (英語)	8/21 (水)	Teams
<input type="checkbox"/> 報告書 (英語)	8/21 (水)	担任・Teams
<input type="checkbox"/> PPT (日本語)	1/15 (水)	Teams
<input type="checkbox"/> 探究論文	2/19 (水)	担任・Teams
<input type="checkbox"/> 礼状	ASAP	外部連携先

2年 _____組 _____席 氏名_____

目次	1
1、 探究活動の目的	
(1) 学習指導要領における探究活動の目的	2
(2) 本校における探究活動の目的	2
2、 探究活動の計画	3～6
3、 探究活動の実践	
(1) 「探究の問い」のたて方	7
(2) 先行研究	7, 9
ア 先行研究とは何か	
イ 資料の違い	
ウ 先行研究調査の方法	
エ 先行研究調査の具体例	
(3) 調査方法	10, 11
ア 調査の設計	
イ 量的調査	
ウ 質的調査	
(4) 外部機関との連携	12
(5) 社会問題との接続	13～15
ア 社会問題とは何か	
イ 自己の探究と社会問題をいかに接続するか	
ウ 2年次の探究のゴール	
(6) 実践的な活動の種類と進め方	15, 16
ア 実践的な活動の種類と進め方	
イ 実施する際の留意点	
(7) 各種コンテストへの応募	16
ア 各種コンテスト応募の目的	
イ 各種コンテストの種類（推奨するもの）	
(8) 2年次探究活動計画書	17～19
ア 2年次探究活動計画書とは	
イ 2年次探究活動計画書の構成	
ウ 参考文献の役割と要件・書き方	
エ 探究活動計画書の形式	
4、 探究活動の総括	
(1) 報告書（英文要約付き）	20
(2) 中間報告パワーポイント資料（英語）	21
(3) 最終報告パワーポイント資料（日本語）	21
(4) 探究論文（英文要約付き）	22
(5) M探1学年の評価ルーブリック	23
5、 資料	
(1) アポイントの取り方・礼状の文例	
(2) 外部機関との連携における心得	

1、探究活動の目的

(1) 学習指導要領における探究活動の目的

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、より良く課題を発見し、解決していくための資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活と自己との関りから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

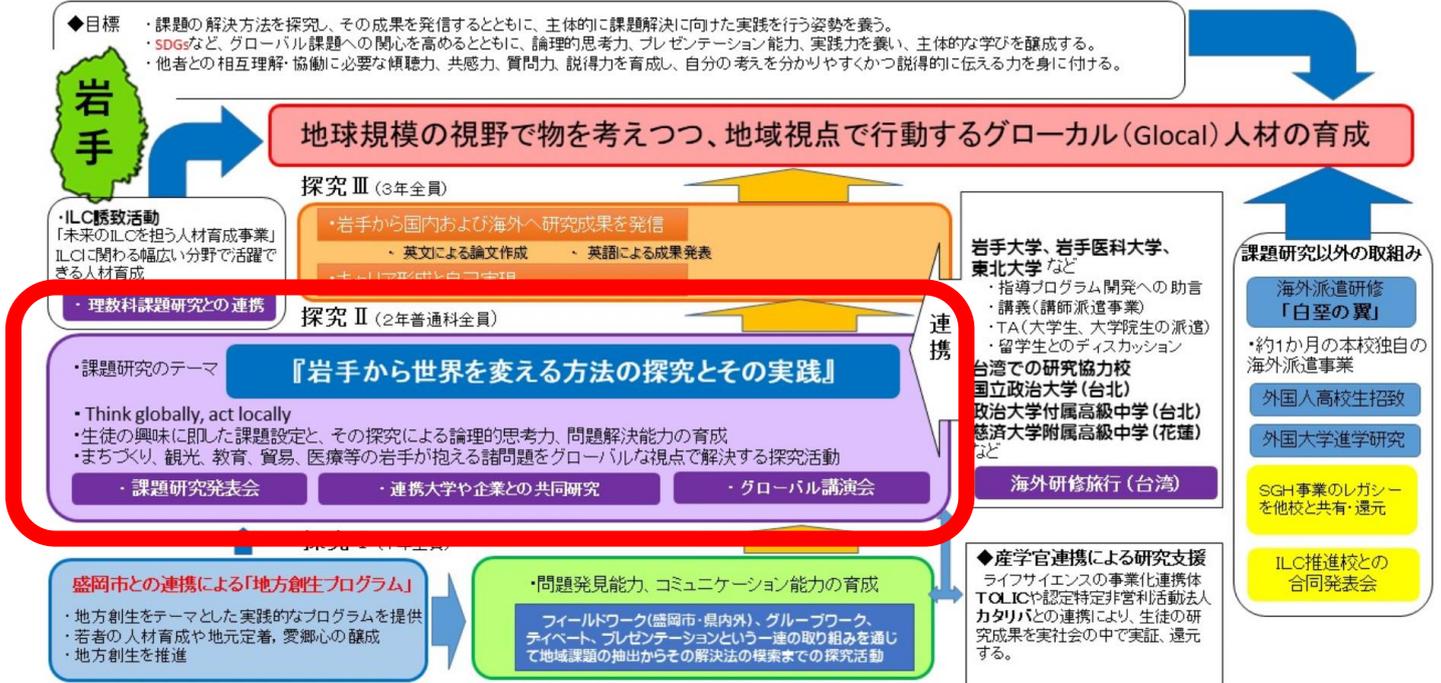
(2) 本校における探究活動の目的

令和4年度 岩手県立盛岡第一高等学校「総合的な探究の時間(M探)」構想図

◆目的 自ら課題を発見し、原因を探り、解決法を探究・議論し、その成果を発信する一連の取組を通して、**時代の先駆者として、社会に広く貢献できる人間の育成**を目指す。

◆目標

- ・課題の解決方法を探究し、その成果を発信するとともに、主体的に課題解決に向けた実践を行う姿勢を養う。
- ・SDGsなど、グローバル課題への関心を高めるとともに、論理的思考力、プレゼンテーション能力、実践力を養い、主体的な学びを醸成する。
- ・他者との相互理解・協働に必要な傾聴力、共感力、質問力、説得力を育成し、自分の考えを分かりやすくかつ説得的に伝える力を身に付ける。



本校のM探二学年では、生徒が課題の発見と解決に必要な知識や技能を身に付けたり、課題に関わる概念を自分の中に作り上げるため、年間を通じて探究活動を行う。2年次は1年次に取り組んだ総合的な探究を基盤に、自己の興味・関心と社会問題との関連を考察し、より広く実践的な探究へと問いを展開することが目的となる。その過程で実社会と自己のかかわりを意識し、情報を集めて、考察した結果を表現できる力を身に付けていきたい。

3年次以降においては、2年次で広げた自己のテーマを学問と結びつけて、より深く考察し、自己の進路を探究する足場としていく。

2、探究活動の計画

2年次探究活動

探究の 問い		連携先	
-----------	--	-----	--

4月～2月

月	火	水	木	金	土	日
		M探 4/17 ガイダンス	18	19	20	21
22	23	M探 24 M探ゼミ (1) ゼミ決定	25	26	27	28
29 昭和の日	30	M探 5/1 共有会 (1)	2	3	4	5
6	7 実力テスト	M探 8 M探ゼミ (2) テーマ決定	9	10	11	12 運動会準備
13 運動会	14 運動会代休	15 生徒会役選	16	17	18	19
20 生徒総会	21	M探 22 共有会 (2)	23	24	25	26
				高総体前期		
27	28	29	30	31	6/1	2
				高総体中心会期		
3	4	M探 2h 5 講演会	6	7	8	9
10	11	M探 12 共有会 (3)	13	14	15	16
			前期中間考査			
17	18	19	20	21	22	23
前期中間考査		スポーツ祭				東大講座
24	25	M探 26 M探ゼミ (3) 探究活動	27	28	29	30
	応援歌練習					

月	火	水	木	金	土	日	
7/1	2	M探 M探ゼミ (4) 探究活動	3	4	5	6 7月進研模試	7
8	9	M探 共有会 (4)	10	11	12	13	14
				保護者面談			
海の日 15	16	M探 英語論文指導	17	18	19 終業式	20	21
22	23	24	25	26	27	28	
夏期講習							
29	30 学校説明会	31 東北大 OC	8/1	2	3	4	
5	6 医学部講座	7	8	9	10	11	
12	13	14	15	16	17	18	
19 始業式	20	M探 共有会 (5)	21	22	23	24	25
実力テスト							
26	27	M探 M探ゼミ (5) 白聖祭展示	28	29	30 白聖祭準備	31	9/1
		白聖祭					
白聖祭代休 2	3	M探 M探ゼミ (6) 英語発表準備	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15	
前期末考査							
		白聖祭代休					
敬老の日 16	17	M探 M探ゼミ (7) 英語発表準備	18	19	20 期末休業日	21	22 東大講座

月	火	水	木	金	土	日
23 振替休日	24	M探 3h 英語発表会 25	26	27	28	29
30	10/1	M探 共有会 (6) 2	3	4	5	6
7	8	M探 2h 講演会 9	10	11	12	13
14 スポーツの日	15	M探 M探ゼミ (8) 探究活動 16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26 仙台一高訪問	27
28	29	M探 M探ゼミ (9) Contest 応募 30	31	11/1 11月進研模試	2	3
4 振替休日	5 生徒会役選	6	7 後期中間考査	8	9 MEDICA 派遣	10
11 後期中間考査	12 MEDICA 派遣	M探 共有会 (7) 13	14	15	16	17
18	19	M探 M探ゼミ (10) 冬季計画 20	21	22	23	24 研修旅行
25	26	27	28	29 研修旅行代休	30	12/1
2 生徒総会	3	M探 M探ゼミ (11) 冬季計画 4	5	6	7 最難関大講座	8
9	10	M探 共有会 (8) 11	12	13	14	15

月	火	水	木	金	土	日
16 保護者面談	17	18	19	20 終業式	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31	1/1	2	3	4	5
6	7	8 始業式 実力テスト	9	10	11 プロシード	12
13 成人の日	14	15 M探 発表会準備	16	17 1月進研模試	18	19
20	21	22 M探 2h ゼミ発表会	23	24	25 駿台模試	26
27	28	29 予餞会	30	31	2/1	2
3	4	5 M探 2h 学年発表会	6	7 後期末考査	8	9
10	11	12	13	14	15	16
		後期末考査		応援歌練習		
	建国記念日				難関・医講座	
17	18	19 M探 論文作成	20	21 共テ模試	22	23 天皇誕生日
24 振替休日	25	26 全体発表会	27	28		

3、探究活動の実践

(1)「探究の問い」のたて方

※1年次で使用

ア テーマの設定 … 自分が本当に興味・関心があるテーマを設定する。

M探一学年の目標

総合的な探究の進め方を理解するとともに、自己の興味・関心に立脚し、自ら探究したいと思う問いを発見する。

1年生の探究活動の目的は、「自ら探究したいと思う問いを発見する」ことにある。そのために重要なことは自分が面白いと思うこと、本当に興味があることをテーマとして設定することである。テーマとして適切か、社会課題とつながるかなど、最初は考えずにこれまでの自分を振り返り、いったんすべての好きなことを列挙してみる。好きなことの探し方として、例えば一日の中で時間を使っていることは何か、嫌いなことを考えその反対を考えてみるなどで、好きなことを見つける。

自分が好きなことは何か？ →野球・ゲーム・アイス・建築物・西洋絵画・みたらし団子…

イ 問いへの変換 … テーマを「調べる」のではなく「問う」かたち(=探究の問い)に作り直す。

「ゲームが好きなので、ゲームについて調べます」では探究学習にならない。どうすればそのテーマをもっと面白くできるか、そのテーマを自分事として考えるとどうなるか、検証することが可能かどうか、といった視点から認知レベルを高めた「探究の問い」の形に作り直していく。ゲームを例にすれば・・・

「ゲームが好き」
→「好きなゲームを共有したい」→「どうすればゲームをしない人に好きになってもらえるか」
→「面白いゲームの共通点はなにか」→「共通点を応用して面白い勉強にできないか」(=探究の問い)

このように認知レベルを高めた問いに設定しなおすことで探究の問いとして磨かれる。認知レベルを高めた問いの作り方の詳細は前期に行った「探究の扉(1)」や「共有会(1)」のプリントを参照。

ウ 仮説の設定 … 「探究の問い」ができたなら、検証可能な仮説の形にしてみる。

答えがたくさんある問いをオープンクエスチョンといい、答えが限定される問いをクローズドクエスチョンと言う。探究活動を実践するときに重要なことは、クローズドクエスチョンの仮説にするという事である。認知レベルを高めた問いはオープンになりがちだが、「いろいろ答えはあるけど、それぞれ良いよね」では探究として失敗。検証可能な仮説をしっかりと作ろう。ゲームを例にすれば・・・

「ゲームが好き」→「面白いゲームの共通点は？」→「共通点を応用して面白い勉強にできないか」→
「ゲームのストーリー性を授業展開に応用すれば、生徒の学習への興味を高めることができる」(=仮説)

エ 検証方法 … 仮説ができたなら、どのような外部機関と連携し調査をすれば、仮説が検証できるか考える。

仮説にはそれぞれ適切な検証方法がある。例えばアンケートやインタビューや実験など、様々な検証方法があるがやみくもに選択するのではなく、最も適したものを選ぶことが大切。また外部機関も検証すべき仮説に合わせて、最適な機関と連携していく。ゲームを例にすれば・・・

「ゲームのストーリー性を授業展開に応用すれば、生徒の学習への興味を高めることができる」(=仮説)
→「ストーリー性がある授業」と「ストーリー性がない授業」を別の生徒に受けてもらう必要がある。それぞれを受けた生徒にアンケートを行い、学習意欲が高まったかどうかを調査してみよう。その際、アンケート数を多くすると結果の妥当性が高まるから、生徒数が多い盛岡第一高校に依頼してみよう。
また学習意欲が高まった人に、どのような要因で高まったかインタビューし理由を確認しよう。

(2) 先行研究

※以下(2)、(3)は右記文献を参照、小熊英二、基礎からわかる論文の書き方、講談社、2022、p480、講談社現代新書

ア 先行研究とは何か

あらゆる学問は様々な「前提」の上に立っている。これを「公理」と言い、証明無しに採用される命題として学問の出発点に設定される(例：ユークリッド幾何学上の公理)。その前提の上で、先人たちが相手を説得するために論文を書き、その論文を別の人が反駁し、さらにその論文に反駁が加えられ、一つの「学問体系」が形成されてきた。先行研究とは、このような一つの学問体系を形成してきた歴史のようなものである。誰がいつどのような論を述べたのか、どのように批判されて乗り越えられたのか、その学問体系の全体像を知ること、これから自分が行おうとしている探究(将来的には研究)がどのような位置にあるかを知ることができる。また、すでに研究されてもの・すでに乗り越えられたものを自己の研究対象から除外することもできる。すでに答えが出ていることを研究しても意味がない場合も多い。そのため、探究の問いが決まったらまず行わなければならないことが先行研究の検討である。

イ 資料の違い

(ア) 一次情報…自分で調べたもの(自分が行ったインタビュー・アンケート・実験の結果 etc)

(イ) 二次情報…他人が調べたもの(先行研究、学術書、政府統計、メディア情報 etc)

(ウ) 三次情報…二次資料をまとめたもの(辞典、図鑑、インターネット記事 etc)

探究するとき重要になるのは(ア)の一次情報である。他人が調べたことや、インターネットで拾ってきた情報よりも自分が調べたデータが最も確実な根拠になる。そのため、データを収集するアンケートやインタビューは厳密に行う必要がある。先行研究は二次情報に分類されるので、それをまとめただけでは探究とはならない。ましてや三次情報はその確実性に疑問が持たれるため、探究の根拠とはなりえない。

ウ 先行研究調査の方法

(ア) 学術書(注記やレファレンスがあるもの)

自分が進める「探究の問い」が決まったら、大きな図書館(岩手県立図書館、岩手大学図書館 etc)に行き、その探究に近い分野の学術書を借りる。借りる際、「要約」部分を読み、自分の問いに関係しているか考える。また、学術書には必ず「先行研究の検討」や「注記」の項が立てられているので、そこの挙げられている文献からより自己の興味関心に近いものを探す。すべて読もうとせず、「要約」「先行研究の検討」「注記」の部分だけ目を通し、本当に興味がわいたらしっかり読み込む。

(イ) 百科事典

世界大百科事典(平凡社)やブリタニカ国際大百科事典(ブリタニカ)などが代表例。そのほかにも歴史学事典や社会学事典などの分野別のものもあり、探究の問いがある程度絞れている人ならこちらの方が良い。項目ごとに参考文献がつけられており、その分野の代表的な研究者が執筆していることも多いため、見逃してはならない先行研究なども紹介されているケースが多い。

(ウ) インターネット

ある程度探究の問いができてから使うことを推奨。専門用語や代表的な研究者などの予備知識が薄い状態では有効な検索ができない。また Wikipedia は執筆者が匿名であり、間違いがあったとしても検証することができないため探究での利用には向かない。もちろん直接の根拠とするためではなく、その分野の概観を掴むために読む、等の利用は構わない。以下、無料で利用できる論文等の検索サイト

- a 「Google scholar」…Google が提供、全世界で出版された論文・書籍の検索サービス
- b 「CiNii Articles」…国立情報学研究所が提供、日本で出版された学術論文のデータベース
- c 「NDL Search」…全国の公共・大学・専門図書館や研究機関等の資料の統合的検索サイト

エ 先行研究調査の具体例 : Google Scholar(グーグルスカラー)での調査

Step 1 “google scholar” と検索

Step 2 探究の問いのキーワードを検索

Step 3 検索結果から、気になる文献を調査する。



英語 共通語

約 37,600 件 (0.02 秒)

[書籍] ② **共通語としての英語**
鳥飼玖美子 2011 - researchgate.net
2. 概要鳥飼氏は、本書を通じて様々な主張を展開しているが、目立って一貫しているのは英語学習者の学習意欲の重要性を強調している点である。国際**共通語**としての英語を学ぶ側は、英語学習が、ネイティブスピーカーの真似をするのではなく、とにかく「通じる英語」、要するに, intelligibility ...
☆ 99 引用元 49 関連記事 全 4 バージョン

① [PDF] EMI (英語を媒介とする授業) における「**共通語としての英語**」の使用の現状把握と意識調査, および ④ **英語教育への提言**
村田久美子, 飯野公一, 小中原麻友 早稲田教育評論 2017 - waseda.repo.nii.ac.jp
グローバル化が進み, 国際的なコミュニケーションの場で**英語が共通語**として使用されることが益々増え, 日本の高等教育分野でも留学生の増加及び日本人学生のグローバル化に対応できる**英語力**増強を図るために EMI を導入する傾向が顕著になりつつある。しかし, この「**共通語**として使われる ...
☆ 99 引用元 4 関連記事 全 3 バージョン

先行研究調査のポイント

- ① [PDF]となっているものであれば、ウェブ上で文献を読むことができる。
- ② 出版・発行年→最新の情報であるかどうか。
- ③ 引用元→引用数の多さは、よい論文かどうかの一つの目安。
- ④ 発行元→大学の紀要、個人の論文、誰による文献であるか。

※思ったような結果が得られない場合、キーワードを変えて、別の視点から検索する

(3) 調査方法

ア 調査の設計

探究の問いができて、先行研究の検討が終われば、次はいよいよ探究の問いの仮説を検証するための調査に入ることになる。本来調査とは探究活動全体を通しておこなっているものだが、ここでは特に11月～1月にかけて行う後期探究活動の期間中に行う生徒の活動を指して「調査」と称することとする。この項目ではいくつかの調査方法を紹介するが、これはあくまで本校の「総合的な探究」のための方法論である。詳細な調査方法や様々な条件、検討すべきポイントなどはそれぞれが大学進学後、学び付け加えていくこと。

調査の方法には大きく分けて次の二つある。

(ア) 量的調査…数で表されるデータを集める調査。質問への賛否や所得、進学率、出生率、論文引用数等

(イ) 質的調査…数では表されないデータを集める調査。写真、映像、音声、自由記述、証言等

方法としての優劣はない。自分が探究するテーマに沿って、二つの調査を組合せ、仮説の検証に用いること。前記のゲームの例でいうと、下線部**(A)**が量的調査であり、下線部**(B)**が質的調査となる。

「ゲームのストーリー性を授業展開に応用すれば、生徒の学習への興味を高めることができる」(=仮説)
→「ストーリー性がある授業」と「ストーリー性がない授業」を別の生徒に受けてもらう必要がある。
それぞれを受けた生徒に**(A) アンケート**を行い、学習意欲が高まったかどうかを調査してみよう。その際、アンケート数を多くすると結果の妥当性が高まるから、生徒数が多い盛岡第一高校に依頼してみよう。また**(B) 学習意欲が高まった人に、どのような要因で高まったかインタビュー**し理由を確認しよう。

イ 量的調査

(ア) 質問紙調査(アンケート調査)

a 悉皆(全数)調査…対象となる集団全員に行う質問紙を配り行う調査

b 抽出調査…対象となる集団から一部を抽出して質問紙を配り行う調査

調査対象が少人数の場合(町内会・特定の施設等)の場合、悉皆調査の方がより正確なデータが取れるため好ましい。多人数の場合は抽出調査となるが、本来は無作為抽出や多段抽出、層化抽出などの方法を組み合わせて行うが、本校探究のレベルではそこまで求めない。自身が必要と考える数の調査を行うこと。

注意点 : 質問に曖昧な表現を使わない。特定の回答に誘導しない。被調査者の同意を得る。

個人情報保護し調査以外にデータを使用しない。データ数はできるだけ多く。

(イ) 実験(社会科学)

因果関係を調べるために行う。先ほどのゲームの例における授業が実験に当たる。この際、実験したい要因に介入する(ゲームの場合は「ストーリー性がある授業を受ける生徒」)対象を「実験群」といい、介入しない対象を「統制群」という。両者の違いをしっかりと設けること。

注意点 : 実験の対象者に同意を得ること(事前に難しい場合は事後に承認を得てから公表すること)

※自然科学の実験に関しては理科・数学科の教師の指導を仰ぐこと。

(ウ) テキストマイニング・内容分析

新聞やメディア、広告などの内容を分析する。新聞記事などに現れた特定のシンボルや命題、人物などを分析単位として設定し、それらの出現頻度や評価、描かれ方などを比較し分析する。多いのは新聞のデータベースから記事の見出し語やキーワードを検索し分析するもの。新聞のデータベースは多くの図書館からアクセス可能。

具体例 : わんこ兄弟が好き→わんこ兄弟が岩手に与えた影響は何か→岩手日報のテキストマイニング→震災復興のシンボルから観光のシンボルへの変化を発見

ウ 質的調査

(ア) インタビュー

- a インタビューの種類
 - (a) 構造化インタビュー…予め質問項目をすべて決めておき、決まった順番で調査対象者に聞く
 - (b) 半構造化インタビュー…ある程度決まったことを質問しつつ、自由に話してもらうのも混ぜる
 - (c) 非構造化インタビュー…自由に話してもらいながら聞くべきことを聞いていく
 - (d) フォーカスグループ…5名前後の調査対象者に集め、質問項目について話し合ってもらう
- b 対象者の選び方…特定の事情を詳しく知っている人を選定する。その際、インタビューの証言に偏りが出ないように3人程度の立場の異なる人物を選ぶとよい。適切な人物を選ぶためにもその分野に対して、どういった利害関係や立場があるのかを事前に研究する必要がある。
- c インタビューする内容
 - (a) 文書で求められない情報を得たい場合
 - ・事実を聞く（本当にあったのか、他の証言と矛盾しているところはなぜか etc）
 - ・決まった質問をする構造化インタビューが向いている
 - (b) 対象者の印象や見解を得たい場合
 - ・対象者の意見を聞く。
 - ・自由に語る非構造化インタビューが向いている。

注意点：録音するかメモを取るかし必ず記録に残すこと、日時・場所の記録がないと正式な論文では採用できない、調査対象者の同意を得ること

(イ) オーラルヒストリー

一人ないし少数の対象者の話を深く聞く。インタビューは通常1~2回だが、オーラルヒストリーは1回2時間を10回程度（探究学習ではこの回数は難しいので3~5回程度でも可）行う。対象としては政治家などのエリート、文書記録に残りづらい人々（マイノリティ etc）、技術者など。自由に話してもらい深い情報を得る。インタビューと同じく同意が必要。

具体例：LGBTQはどのような困難を抱えているか→盛岡に住んでいる当事者に話を聞く（5回）
→その記録を分析、改善のための政策案を考察

(ウ) 会話分析・言説分析・ナラティブ分析

複数の人々の会話や文書の言説、個人や社会集団の語りを分析する。人間が集団の中でどのような戦略で動いているか、駆け引きを会話や文書資料から分析する。

具体例：一高生の自画像の変遷→『白聖』の書かれた箴言録を歴史的に分析、昭和・平成・令和でどのような違いがみられるか

(エ) フィールドワーク

興味がある現場に行き3日間~数週間の観察を行いその結果を分析する。その際細かな記録をつけてノートにまとめる（これをフィールドノートという）ことが重要。

具体例：動物の癒し効果についての探究→セラピー施設や動物のカフェに行き、患者・客と動物の接触の状況をフィールドノートに記録する→どのような行為が癒しと定義されるか分析

(オ) アクションリサーチ

定義例：望ましいと考える社会的状態の実現を目指して研究者と研究対象者とが展開する協働的な社会実践のこと。

研究しつつ社会の改善を目指していくこと。

具体例：部活動をもっと楽しくしたい → 楽しさの定義や楽しくする方法を他の部員たちと一緒に実践しながら調査していく。

(4) 外部機関との連携

ア 目的

探究活動を進めるにあたり外部機関と連携して行うこととする。この目的は、以下の二つである。

- (ア) 探究の問いを「たてる・実践する・検証する」過程で、外部機関とつながることで生徒自身が探究の問いの新たな面に気づき、問いを広げたり深めたりする。
- (イ) 社会と探究の問いの繋がりを意識し、二年次における社会課題の探究への助走とする。

イ 連携する時期・方法と注意点

(ア) 連携する時期・方法

a 探究の問いを立てる前

自己の興味関心は見つかっているが、探究の問いや仮説の形になっていない時期。各教科の先生や興味関心に近い分野で働いている人、研究をしている人に話を聞いてみる。またカワトク cube II内の「**盛岡という星で BASE STATION**」(以下盛星と省略)に行き相談してみると、問いをたてるヒントが得られるかもしれない。

b 探究活動を実践していく段階

夏季休業中や冬季休業中に具体的に探究活動を進めていく時期。この時期にはすでに探究の問いが出来上がっていると思うので、そこで作った仮説を検証するために必要な外部機関と連携する。個人で探しても構わないし、先生方やご家族からアドバイスをもらっても構わない。先ほど挙げた盛星に行ってみてもよい。その際重要なのは、やみくもに連携するのではなく、自己の探究の仮説を検証するために〇〇をする必要があるから連携する、という明確な目的意識だ。オンラインで特定の分野の専門家とつながるのも有効である。

c 探究活動が終了した段階

お世話になった外部施設への感謝を伝え、礼状を発送する。また継続研究を行う場合は、次回以降もお世話になりたい旨を伝え了承を得る。

(イ) 注意点

- a 信頼性…自己の探究の検証を行う外部機関、人物として適切か(活動内容、適格性)。
- b プライバシー…相手のプライバシーを尊重すること(特に調査公表への同意)、自己のプライバシーを守ること(特にオンラインで外部とつながる場合)。
- c 金銭…一般的に金銭の授受が発生する調査や探究活動は控える。
- d 知的財産…他者の研究成果を自己の研究成果として発表してはならない。インターネットから文書や画像をコピーして使用する場合はその知的財産権や、使用の許諾を確認する。

ウ 連携先の具体例(過去のもの、順不同)

TOLIC(令和6年3月に連携協定締結)

岩手医科大学、かさい睡眠呼吸器クリニック、セルスペクト株式会社、盛岡市役所、盛岡駅、滴生舎、都南歴史民俗資料館、岩手屋、東山堂、盛岡地域交流センター、UNIQLO イオンモール盛岡南店、盛岡農業高校、盛岡さんさ踊り実行委員会、さいとう製菓、紫波第一中学校、若竹千佐子さん、道の駅雫石あねっこ、大槌町文化交流センター、盛岡中央消防署、IGR いわて銀河鉄道、一般社団法人 Spring、タルトタタン、インクル子ども食堂、ミニチュアファクトリー株式会社、九州大学、セントラルフィットネスクラブ 24 盛岡、岩手県立美術館、盛岡地方気象台、岩手県教育委員会、club change、視覚障害者福祉会館、フードバンク岩手、岩山パークランド、株式会社 いわてアスリートクラブ、東北農業研究センター、紫波町オガール、福田パン、白龍カワトク店、M進盛岡本校、浅野聡子さん、ふれあいランド岩手、くずまき高原牧場、料亭田中、松ぼっくり、JICA 岩手デスク etc

(5) 社会問題との接続

ア 社会問題とは何か

社会問題とは何かを考える前に辞書における「社会」「社会問題」を確認してみる。

・「社会」

明鏡国語辞典：①人々が集まって組織を作り、共同生活をする集団。家族のような小さな単位から国家のように大きな単位まで様々な集団をさす。②世の中。世間。③同類の仲間の世界。

旺文社国語辞典：①共同の生活を営む人間の集団。②世の中。世間。③同類の人々の集まり。

新明解国語辞典：①家族や帰属する組織・団体などを単位として生活を営む人々の集団。②職業を同じくする人たちの集団。

・「社会問題」

明鏡国語辞典：①社会の欠陥・矛盾・不合理などから生じ、社会生活に大きな影響を及ぼす諸問題。

旺文社国語辞典：①社会制度の矛盾や欠点から生じる問題

新明解国語辞典：社会生活を営む上の矛盾・不合理から起こる問題。

以上からわかることは、「社会」は人々の共同生活の集団をさしており、「社会問題」とはその社会の矛盾や欠陥から生じた諸問題であること、そして社会の範囲は家族等の小さな集団から国家等の大きな集団までを含むという事である。

次に具体的な社会問題の例を見てみる。

子どもの貧困、貧困女子、無戸籍問題、ワーキングプア、水問題、生物多様性の危機、食品ロス（フードロス）フラワーロス、気候変動・地球温暖化、ごみ問題、海洋プラスチック問題、教員の多忙化、いじめ問題、不登校留学生アルバイト問題、入管問題、難民問題、スウェットショップ、少子高齢化問題、2024年問題、ヤングケアラ、エイジズム、ニート問題、ジェンダーバイアス、夫婦別姓、限界集落・消滅集落、過疎化、空き家問題

※ [【2024年最新】日本の社会問題一覧！ランキングで29個の社会課題を解説！（cococolor-earth.com）](https://cococolor-earth.com)参照

上記はあくまで一例であるが、いずれも社会の矛盾が、人間集団に影響を与えた結果引き起こされた問題であることがわかる。

イ 自己の探究と社会問題をいかに接続するか

では、このような社会問題に自己の探究をいかに接続するのかを考えていこう。重要なことはまず「自己の興味・関心」がその探究の土台にあることだ。①1年次に行った探究を見直し、その中で②自分が大切にしたい要素を確認しよう。そのうえで自分が大切にしたい③要素と重なる部分がありそうな社会問題を調査し、大切な要素を解決に生かせそうな問題を見つけよう。関連している問題が見つかったら④どの単位の「社会」にむけてその解決に向けた活動を行うのか構想しよう。最後に⑤具体的な活動を設定し、⑥SDGsの視点から整理しなおしてみよう。具体的なテーマで例示してみる。

① 1年次に行った探究の見直し

「ゲームのストーリー性を授業展開に応用すれば、生徒の学習への興味を高めることができる」（＝仮説）
→「ストーリー性がある授業」と「ストーリー性がない授業」を別の生徒に受けてもらう必要がある。それぞれを受けた生徒にアンケートを行い、学習意欲が高まったかどうかを調査してみよう。その際、アンケート数を多くすると蓋然性が高まるから、生徒数が多い盛岡第一高校に依頼してみよう。

また学習意欲が高まった人に、どのような要因で高まったかインタビューし理由を確認しよう。

見直した点：ストーリー性の定義が曖昧だった、母集団のそもそもの学習意欲を測定しなかった、インタビュー結果とアンケート結果を掛け合わせた分析が不十分だった。

② 自分が大切にしたい要素

自分が大切にしたい要素は何だろうか？→

「ゲームが好きという気持ち」「誰でも熱中できる」「ゲームに良い面もあるということを知ってもらいたい」「勝ち負けがつく」「ゴールが明確」「学習にも生かせる」

③ 解決に生かせそうな問題を見つける。

どんな社会問題があるか調査→文献調査、インターネット調査 etc

限界集落…限界集落の楽しさを知ってもらうゲームを作れないだろうか。

ジェンダーバイアス…男女別の人生ゲームを作ってそれぞれの生きづらさを感じてもらうのはどうだろう。

不登校…不登校児をつなぐゲームコミュニティがあったら良いんじゃないか。

④ どの単位の「社会」にむけてその解決に向けた活動を行うのか構想する

「限界集落」の課題解決に必要な「社会」はどこだろう？ → 都市圏在住の10代

「ジェンダーバイアス」の課題解決に必要な「社会」はどこだろう？ → 小さい子どものいる家庭

「不登校」の課題解決に必要な「社会」はどこだろう？ → 不登校児が学習できる場所

⑤ 具体的な活動の設定

都市圏在住の10代に限界集落の魅力を伝える位置情報ゲームをプログラミングしてみよう。

ジェンダーバイアスについて小学生が理解できるゲームを作り、親子イベントを開催してみよう。

誰でも参加できるオンライン学習ゲーム大会を企画し、フリースクールに参加を依頼してみよう。

⑥ SDGs の視点からの整理

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



限界集落の問題 → SDGs の「11 住み続けられるまちづくりを」に関連しているな。

ジェンダーバイアスの問題 → SDGs の「5 ジェンダー平等を実現しよう」に関連しているな。

不登校の問題 → SDGs の「4 質の高い教育をみんなに」に関連しているな。

ウ 2年次の探究のゴール

2年次の探究のゴールは「**自分の興味関心を社会問題と結びつけて、その解決のために具体的な活動をする**」になる。1年次の活動はアンケートやインタビューなどの調査が多くを占めていたが、2年次に求められることは、調査結果に基づいた**具体的な実践**である。ただ注意して、やみくもにイベント開催や集会を実施すればよいというものではない。自分が対象としている社会問題の解決にその活動がどのような貢献をするのか、事前にしっかりと構想し、その意味を明確にしておくことが必要である。また効果的な実践となるためには事前の調査が綿密であることが求められる。1年次に実践した様々な調査手法を生かして、その社会問題の実相が浮き彫りとなり、必要となる実践が見える調査を行おう。

(6) 実践的な活動の種類と進め方

ア 実践的な活動の種類と進め方

(ア) 集会・講演会

自分が構想した実践を多くの人に行ってもらったり、多くの人に議論してもらったりする場合、「集会」が有効である。場所はアイーナなど有料の所もあれば、公民館のように無料の所もある。集会の内容によって、対象者の集まりやすさや会場費用、当日の天候、必要物品、事前の広報活動などを総合的に勘案しながら進めていく必要がある。

特定分野について理解を深めたり、専門家の見解を広く共有したい場合、「講演会」を開くこともできる。集会と同じような点に配慮する必要があるが、講演会の場合は当然講師に依頼する必要がある。事前に講師予定の方と連絡を取り合い、日程を調整する。その後会場を予約し、チラシなどで広報活動を行う。講師の費用は無料が望ましいが難しい場合、ゼミ担当の教員と相談し検討する。金銭が絡む場合は個人で判断せず、必ず担当教員と相談することとする。

(イ) 製造

自分が構想した図面やモデルを生かして具体的な物を作りたいときは「製造」となる。本校の探究でも以前、家のモデルを3Dプリンター等で作成した例がある。前節の例で挙げた「限界集落の魅力を伝えるゲーム作り」もこの製造にあたる。自分たちで部材を購入し実験器具を作成してみてもよいし、またTOLIC等の外部の企業と連携して進めることもできる。

(ウ) 販売

自分たちで製造したものを売りたい場合は「販売」となる。具体的な工作物であれば販売会などの機会を自分で設定しても良いし、文化祭などでブースを出すことも考えられる。食品については販売に免許が必要なため自分たちで行うことはできない。構想したお菓子や総菜を外部企業に依頼して作ってもらい、販売することは可能であるためゼミ担当教員と相談すること。物品の仕入れも金銭と関わるため十分に注意しながら進めること。

(エ) ボランティア

社会問題の現地に行ってみたい、直接誰かの役に立ちたい場合は「ボランティア」となる。年間を通じて本校には多くのボランティア依頼がある。そのほか被災地ボランティアに自ら行ってみても良いし、公的な場で応募を呼び掛けているものに参加しても良い。重要なのは自分の探究にどのように位置づけられるか事前にしっかりと構想しておくことだ。

(オ) 署名活動

公的機関に大きな声を届けたい場合、「署名活動」が有効である。例えば「盛岡一高西門前に信号機をつけよう」などをテーマに活動した場合、一高生や保護者、近隣住民に署名を依頼し、多くの人が設置を望んでいる現状を盛岡市などの所管組織に伝えることができる

(カ) その他

その他自分たちが実践した活動がある場合は、ゼミ担当教員と相談しながら進めること。

イ 実施する際の留意点

- (ア) **法令の遵守**…言うまでもないことであるが、諸法令に違反しない活動であること。
- (イ) **金銭の扱い**…自分たちだけで判断せず、ゼミ担当教員と相談の上進めること。
- (ウ) **外部対応**…失礼がないように。自分たちが校名を背負っていることを忘れない。

(7) 各種コンテストへの応募

ア 各種コンテスト応募の目的

2年次の探究でも、1年次に続き外部コンテストへの応募を必須とする。1年次の探究では成果のまとめの時期と応募したいコンテストの開催時期が一致しなかったため応募できなかったものもいるようだが、2年次は年度当初から各種コンテストの開催時期を見通し、その時期に合わせて出場できるように各自調整すること。

本校の探究活動で各種コンテストに応募する目的は以下のとおりである。

(ア) 探究成果の明確化

各種コンテストは優れた探究を表彰するものであるが、それへの応募を通じて自分たちの探究がどの程度深められているかを、客観的に明確化する

(イ) 発表機会の確保

2年次にはゼミ発表会を設けているが、すべての生徒が再修正を発表するのはその1回のみである。発表の機会を通じてさらなる成長を促すことも Contest 傘下の目的である。

イ 各種コンテストの種類（推奨するもの）

- ・Global link online (4/17～6/7)
- ・国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト (6月～9月)
- ・高校生 SDGs コンテスト (6/30～7/31)
- ・全国高校生ビジネスプランコンテスト (7/1～9/30)
- ・マイナビキャリア甲子園 (7/3～11/24)
- ・Change maker award (7/8～11/22)
- ・未来への挑戦東京農大 SDGs コンテスト (7/20～9/20)
- ・「算数・数学の自由研究」作品コンクール (8/2～9/6)
- ・「科学の芽」賞 (8/21～9/16)
- ・高校生ビジネスプラン・グランプリ (8/22～9/20)
- ・グローバルサイエンティストアワード夢の翼 (9/1～10/30)
- ・日本学生科学賞 (9/2～10/24)
- ・SDGs QUEST みらい甲子園 (9/10～12/10)
- ・コカ・コーラ環境教育賞 (11/1～12/15)
- ・全国高校生マイプロジェクトアワード (11/1～12/8)
- ・中高生探究コンテスト (11/1～12/23)
- ・つくば Science edge (11/30～1/20)
- ・SDGs 探究 AWARD (12/1～2/1)
- ・高校生国際シンポジウム (12/1～1/7)

(8) 2年次探究活動計画書

ア 2年次探究活動計画書とは何か

探究活動を進めるための設計図が探究活動計画書である。前期は7月、後期は11月のそれぞれの探究活動を本格的に始める前に提出してもらおう。「何をやるのか」、「何を使うのか」、「いつまでにやるのか」、「どこまで準備できているか」、「何が新しく必要か」、「どこと連携するのか」、「どこが新しいのか」、「どんな成果が期待されるのか」などを示す。提出後、担任や指導を受けている人から指摘を受けた項目は適宜修正する。

イ 2年次探究活動計画書の構成

- (ア) 探究の問い(タイトル) …何を探究するのかというテーマ
- (イ) はじめに…この探究をなぜ行おうと思ったか、この探究を通じて何を明らかにしたいのか。
- (ウ) 先行研究の検討…計画書提出までに調べられた先行研究の内容
- (エ) 方法論…どのような対象に対して、**どのような実践を行うか。**
- (オ) 日程…どのような日程で探究を進めるか
- (カ) 参考文献…計画書提出までに調べられた先行研究の内容
- (キ) 外部機関…どのような外部機関と、どのように連携するか

ウ 参考文献の役割と要件、書き方 (以下の文章は科学技術振興機構の科学技術情報流通技術基準による)

1. 参考文献の役割と要件

- (1) 論文を作成する際に引用した文献、参考にした文献は、著者がその出典を明示しなければならない。
- (2) 参考文献の記述にあたっては、読者がその参考文献にたどり着けるだけの十分な書誌事項を示さなければならない。
- (3) 参照した文献を明示することは、著者と読者が共に既存の論点を整理することを助け、論文に示される新規性、独創性を明らかにすることでもある。
- (4) 参照した文献を明示することにより、著者側から読者に関連資料の存在を伝えると同時に、読者側からはその研究分野の動向を確認・評価することが可能になる。
- (5) 参照した文献としては、一次情報が示されることが望ましい。著者が読んでいない資料に依拠し、それを参照したものとして示すことは、論文内容の記述に対する信頼性を欠くことに繋がる。

2. 参考文献の書き方

- (1) **雑誌**…著者名、論文名、誌名、出版年、巻数、号数、はじめのページ-おわりのページ、ISSN。(言語の表示)、(媒体表示)、入手先、(入手日付)。電子雑誌などで、ページのない場合は、記事番号等を記述する。

例1. 和文誌、複数著者、巻・号を完全記述

…西潔, 石原和弘, 火山地域における震源計算についての提案. 火山. 2003, vol. 48, no. 5, p. 407-413.

例2. 例1の巻・号を簡略記述…西潔, 石原和弘, 火山地域における震源計算についての提案. 火山. 2003, 48(5), p. 407-413.

- (2) **図書**…著者名、書名、版表示、出版地、出版者、出版年、総ページ数、(シリーズ名、シリーズ番号)、ISBN。(言語の表示)、(媒体表示)、入手先、(入手日付)。

例1. 編者、団体著者、版表示あり …照明学会編. 照明ハンドブック. 第2版, オーム社, 2003, 573p.

例2. 版表示なし、シリーズを記述…井尻憲一. 宇宙の生物学. 朝倉書店, 2001, 148p., (シリーズ応用動物科学/バイオサイエンス, 5).

- (3) **ウェブサイト**…著者名。“ウェブページの題名”。ウェブサイトの名称。更新日付。(言語の表示)、(媒体表示)、入手先、(入手日付)。ブログの場合はブログ名と更新日付をいれることが好ましい。

例1. ウェブサイト「J-STORE」に掲載された記事

坂本和夫編. “パルスレーザーアブレーションにおけるドロップレットフリー薄膜の作製技術”. J-STORE. 2005-11-01. http://jstore.jst.go.jp/cgi-bin/techeye/detail.cgi?techeye_id=32, (参照 2006-06-23).

2年次探究計画書

1年__組__席 氏名_____

探究の問い (タイトル)			
はじめに			
先行研究 の検討			
方法論	対象		
	方法		
日程			
参考文献			
外部機関	名称		住所
	担当者		連絡先
	連携 目的		
	連携 内容		
	打合せ 進捗 状況	(計画書提出時点)	

メモ欄 探究計画を練る時に使いましょう。

4、 探究活動の総括

(1) 報告書（英文要約付き）

夏季休業終了後に提出し、白聖祭に展示。夏季休業明けのM探はほとんど日程がないので、夏季休業中に作成を済ませておくようにする。規格等は以下の通り。

ア 報告書の規格・形式等

(ア) Windows の Word で作成すること

(イ) 基本書式

用紙サイズ	A 4
余白	上下左右 15mm
1 行字数	45 字
1 ページ行数	45 行 ※ ページ番号をつける。
タイトルフォント	MS ゴシック 14pt
本文フォント	MS 明朝 10.5pt

(ウ) 制限字数…A 4 用紙 2 枚（1 枚も 3 枚以上も認めない。必ず 2 枚に収めること）

(エ) 保存先（PDF にすること）

Teams 盛岡一高 2 学年 (R6) → M 探 → ファイル → 【提出】報告書 →各クラス

(オ) ファイル名 個人 4 桁番号+氏名【報告書】 例) 2 年 1 組 43 番の生徒⇒2143○○○○【報告書】

(カ) 形式

令和 6 年度 第 2 学年 M 探 報告書

『タイトル』

個人番号 4 桁 氏名○○ ○○

英文の要約 (abstract)

1. はじめに ・なぜそのテーマを選んだのか ・何を明らかにしたいのか（何を行おうとしているのか）
2. 先行研究の検討 ・取り組むテーマの現状 ・報告書完成までに調べられた先行研究の内容。
3. 方法論 ・対象…何を対象にしたのか ・調査方法…どのような調査を行ったのか
4. 調査結果
 - ・探究活動で明らかになった内容をまとめる。
 - ・「いつ」「どこで」「誰から」「何を」を明確にし、写真やデータをまとめたグラフや図などを掲載する。
5. 考察 ・調査結果についての自己の分析をまとめる。
6. 今後の展望
 - ・今後どのような調査を行うか。
 - ・今回の探究でどのような問いが新たに生まれたか。
7. 参考文献 計画書における参考文献の書き方も参照すること。

イ 提出について

(ア) 提出方法…紙に印刷し担任に提出、Teams 上に PDF で保存 ※どちらも行うこと

(イ) 提出期限…8 月 21 日（水） 16：00 まで

(2) 中間報告パワーポイント資料(英語)

夏季休業終了後に提出し、英語発表会で使用する。夏季休業明け最初のM探が提出日。発表時間は3分以内なのでそれを想定して夏季休業明けまでの探究活動の様子をまとめることとする。

ア パワーポイント資料の規格・形式等

- (ア) 発表時間は3分以内とする。**スライド内の言語及び発表原稿は英語とする。**
- (イ) スライド数は8~10枚程度。以下に記すのはあくまで一例、アレンジして構わない。
 - ①タイトル・席次・名前 → ②目次 → ③はじめに(探究の目的を説明) →
 - ④先行研究の検討 → ⑤方法論(調査方法の説明) → ⑥調査結果・分析 →
 - ⑦今後の計画 → ⑧参考文献
- (ウ) 保存先
Teams 盛岡一高2学年(R6) → M探 → ファイル → **【提出】PPT資料(中間)** → 各クラス
- (エ) ファイル名 個人4桁番号+氏名 **【PPT資料】**
例) 2年1組43番の生徒 ⇒ 2143〇〇〇〇 **【PPT資料】**
- (オ) PPT資料作成上の留意点
 - a 次にあげるループリックを参照しつつ作成すること
 - b 1スライドに1内容を心掛け、コンパクトにまとめる

イ 提出について

- (ア) 提出方法…Teams上に保存
- (イ) 提出期限…**8月21日(水) 16:00まで**

(3) 最終報告パワーポイント資料(日本語)

冬季休業終了後に提出し、ゼミ・学年・全体発表会で使用する。冬季休業明け最初のM探が提出日。発表時間は3分以内なのでそれを想定して探究活動の様子をまとめることとする。

ア パワーポイント資料の規格・形式等

- (ア) 発表時間は3分以内とする。**スライド内の言語及び発表原稿は日本語とする。**
- (イ) スライド数は8~10枚程度。以下に記すのはあくまで一例、アレンジして構わない。
 - ①タイトル・席次・名前 → ②目次 → ③はじめに(探究の目的を説明) →
 - ④先行研究の検討 → ⑤方法論(調査方法の説明) → ⑥調査結果・分析 →
 - ⑦今後の計画 → ⑧参考文献
- (ウ) 保存先
Teams 盛岡一高2学年(R6) → M探 → ファイル → **【提出】PPT資料(最終)** → 各クラス
- (エ) ファイル名 個人4桁番号+氏名 **【PPT資料】**
例) 2年1組43番の生徒 ⇒ 2143〇〇〇〇 **【PPT資料】**
- (オ) PPT資料作成上の留意点
 - a 次にあげるループリックを参照しつつ作成すること
 - b 1スライドに1内容を心掛け、コンパクトにまとめる

イ 提出について

- (ア) 提出方法…Teams上に保存
- (イ) 提出期限…**1月15日(水) 16:00まで**

(4) 探究論文(英文要約付き)

ア 目的

各自の探究仮説に基づく探究課題についての1年間の活動から得られた情報や実践をもとに、考察し、次年度の探究活動へとつなげる。

イ 探究論文の規格・形式等

- (ア) Windows の Word で作成すること。
- (イ) 基本書式

用紙サイズ	A 4
余白	上下左右 15mm
1 行字数	45 字
1 ページ行数	45 行 ※ ページ番号をつける。
タイトルフォント	MS ゴシック 14pt
本文フォント	MS 明朝 10.5pt

- (ウ) 制限字数…**A 4用紙4枚**
- (エ) 保存先 (PDF にすること)
Teams 盛岡一高2学年 (R6) → M探 → ファイル → 【提出】探究論文 →各クラス
- (オ) ファイル名 個人4桁番号+氏名【探究論文】
例) 2年1組43番の生徒 ⇒ 2143〇〇〇〇【探究論文】
- (カ) 形式

令和6年度 第2学年 M探 探究論文

『タイトル』

個人番号4桁 氏名〇〇 〇〇

英文の要約 (abstract)

1. はじめに ・なぜそのテーマを選んだのか ・何を明らかにしたいのか (何を行おうとしているのか)
2. 先行研究の検討 ・取り組むテーマの現状 ・調べた先行研究の内容。
3. 方法論 ・対象…何を対象にしたのか ・調査方法…どのような調査を行ったのか
4. 調査結果
 - ・探究活動で明らかになった内容をまとめる。
 - ・「いつ」「どこで」「誰から」「何を」を明確にし、写真やデータをまとめたグラフや図などを掲載する。
5. 考察 ・調査結果についての自己の分析をまとめる。
6. 今後の展望
 - ・今後どのような調査を行うか。
 - ・今回の探究でどのような問いが新たに生まれたか。
7. 参考文献 計画書における参考文献の書き方も参照すること。

ウ 提出について

- (ア) 提出方法…**紙に印刷し担任に提出、Teams 上に PDF で保存 ※どちらも行うこと**
- (イ) 提出期限…**2月19日(火) 16:00まで**

(5) M探の評価ルーブリック

M探 評価ルーブリック

		極めて良好である	概ね良好である	改善の余地がある
		3点	2点	1点
課題設定能力	「探究の問い」の設定	「自分軸」があり、自己の興味・関心に沿った具体的な「探究の問い」であり、 独自性や先進性 がある。	自己の興味・関心に沿った「探究の問い」である。	「探究の問い」が漠然としている。
課題探究能力	調査の実践	外部機関等と 効果的に 連携し、仮説を検証する探究活動を実践する中で、 新たな探究の問いを見出した 。	外部機関等と連携し、仮説を検証する探究活動を実践した。	外部機関等との連携が不十分である。
論理的思考力	調査の設計	複数の調査方法を効果的に 組合せて仮説を検証し、結果の分析も妥当である。	必要な調査方法を一つ選択して仮説を検証し、結果の分析も妥当である。	調査方法の選択や結果の分析が適切ではない。
プレゼン能力	発表資料作成	わかりやすく工夫され 、必要な情報をおさえた発表資料であり、論理的な構成で作られている。	発表資料に必要な情報が盛り込まれ、論理的な構成で作られている。	発表資料に必要な情報が足りない。
実践力	発表の態度	熱意が伝わる 発表態度であり、 スライド内容を越えて、自分の言葉で 説明できている。	発表にふさわしい態度でスライドの内容を説明できている。	発表の態度としてふさわしくない。
総合評価	自己変容 自己受容	発表者は、M探を通じて 大きな成長 が見られた。	発表者は、M探を通じて成長が見られた。	M探は、成長に貢献していない。

5、資料

(1) アポイントの取り方・礼状の文例

ア アポイントの取り方（メール文例）

(勤務先) 株式会社○○

(役職) ○○○様

突然のお便り失礼いたします。私は盛岡第一高等学校1年生の○○○と申します。今回はお願いがあってご連絡いたしました。

現在、私(達)は探究学習という授業の中で、課題の発見とその解決へ向けた手がかりを探るために調査を行っています。ぜひ○○○様にお話を伺ってみたいと思いお便りを差し上げました。○○様が取り組まれているお仕事／活動は△△といった点で私たちのテーマと深く関わるものと考えます。○○様がそのようなお仕事／活動に携わられるようになった経緯や、お仕事／活動の実態、またこれからの社会の中で生きていくため、私たちは何ができるのか、何をすべきか、そのヒントについてお聞きしたいと思います。具体的な質問事項は下にまとめておきましたのでご覧ください。

お忙しいところ誠に申し訳ありませんが、私(達)のために20～30分程度時間を作っていただけないでしょうか。ご参考までに、私が訪問可能な時間帯を以下にお示ししますのでよろしくご検討をお願いいたします。差し支えなければ後ほど改めてお電話にてご連絡させていただきたいと思っておりますので、その折はどうぞよろしくをお願いいたします。

【聞き取り内容の取扱いにつきまして】

- (1) 聞き取り内容を原稿にまとめます。
- (2) 後日編集した原稿をお送りしますので、内容に誤りがないかご確認をお願いいたします。
- (3) 聞き取り内容を含むレポートは、文化祭や発表会などの機会に校内外で公表する予定です。

【主な質問内容】

- (1) . . .
- (2) . . .

【私(達)が訪問可能な日時】

7月○日(○)～○月○日(○)の15:00～17:30 8月●日(●) 10:00～12:00 等

※訪問に当たり、依頼文書の発行や職員の同行が必要な場合はお申し付け下さい。

【連絡先】

電話番号：○○○-○○○○-○○○○

E-mail：▽△▽△▽@gmail.com

盛岡第一高等学校 1年○組 氏名

イ 礼状の文例

- (ア) 調査実施後、一週間以内をめどに聞き取り内容をまとめ、お礼状とともに相手の指定する方法で送り、確認をいただく。
- (イ) 礼状は本来手書きであることが望ましいが、パソコンで作成し、プリントアウトしたものを FAX で送ったり、メールで直接送ったりしてもかまわない。
- (ウ) 文章に加え、今後中間報告書などで使用する予定の写真がある場合はあわせて確認をいただくこと（調査当日に許可をいただいとくと手間が省ける）。
- (エ) 相手に送信する前に、学校にいる一学年の先生に確認してもらい、FAX で送る場合は事務室 FAX の使用許可を得ること。

(文書例)

(勤務先)

(役職) ○○○様

この度はお忙しい中、貴重な時間を割いて私たちの調査にご協力いただきまして、誠にありがとうございますございました。○○については初めて知ることばかりでしたが、特に・・・というお話が大変印象的でした。

(お話をうかがった感想を書く)

早速おうかがいした内容を文章にまとめてみました。

この内容は今後報告書としてまとめて、校内で共有していくことを予定しております。

お手数をおかけしますが、内容に問題がないかどうかご確認いただけますよう、お願いいたします。

ご不明な点や修正点がありましたら、 月 日 () までに、下記の連絡先までご連絡いただければ幸いです。どうぞよろしく願いいたします。

【連絡先】

TEL：090-○○○-○○○ 盛岡第一高等学校 1年○組 ○○○○

MAIL: △△@□□

FAX：019-613-2516 (学校)

※FAXにて送っていただく場合は、(代表名)宛である旨明記してくださいませよう、お願いいたします。

(2) 外部機関との連携における心得

外部機関等と連携する時の心得

1 連絡を取る

- 予め FAX・Mail で概要を伝えておけば電話等でも話が伝わりやすい。
- 電話では最初に「今お時間いただいてよろしいですか」と尋ねる。(一方的に長々と話し始めるのは失礼)
- 3人中2人には断られるとっておくこと。断られても、めげない。

2 準備

- 質問内容の一覧など、取材メモを作っておく。
- 尋ねる内容を、前もって FAX や手紙で知らせておく。
- 予備知識を蓄えておく。仕事・活動内容など、予備知識の有無で話の流れは大きく変わる。

3 心構え

- 礼儀正しさ、言葉遣いに気を付けよ。失礼だったと思ったらすぐお詫びする。
- 服装は当然制服。正しく着る。
- 録音装置や多くの写真があったほうが後で便利。

4 取材現場で

- 相手に「わかってもらえる」と思ってもらえば勝ち。ただ、うなずいていけばよいというものではない。そのためには入念な事前調査も必要。
- 最初に「今日はどれくらい時間をいただけますか？」と聞きその範囲でお話を聞くこと。
- 足りなければその場で二度目の取材の相談をする。

5 質問

- 予め想定した質問にこだわり過ぎない。話の流れに逆らわずに質問をする。
- 発表へむけなるべく具体的に話を聞き、許される範囲で写真撮影し、資料提供を受ける。
- 自分たちのテーマに関わらないところでも、相手が熱心に語るポイントは聞き逃さないこと。

6 質問項目例

- 相手の経歴 (どのような経緯でこの仕事/活動に携わるようになったのか)
- 仕事・活動する上での喜び・辛さ、信念・哲学など
- 21世紀の社会は以前と比べどう変わってきているのか、そのために何が必要になると考えられるか
- 活動・仕事・生活をする中で、自分自身や周囲に変化はあったか。現状はどうか
- 今後の課題 (相手にとって、私たち岩手に住む者にとって、日本という国や世界にとって)

7 その他

- できあがった原稿は、取材した本人に読んでもらいチェックを受ける。原稿の送付先・送付方法など、今後の相手の都合のよい連絡先をきちんと把握すること。
- 報告書作成のために、許可を得たうえで相手や調査地の写真を1枚以上とること。

